

みんなでつくる! 未来の学校

第四中学校区小中一貫校を
考えるワークショップ

Newsletter Vol.7
2023/1 発行



「あたらしい学校の
施設を考えよう」

2022/10/26 (水) 19:00~21:00

門真市民プラザ

参加者：24名

発行元：門真市教育委員会



前回のふりかえり

スクールツクルのワークショップとして、本年度最初の開催となった前回、勉強会や視察会の感想を共有した後、新しい学校を設計する事業者として選定された石本建築事務所から整備プラン案の説明がありました。その後、地域利用可能施設の活用イメージをグループごとに話し合いました。



前回話し合った意見のフィードバック

門真市教育委員会から、前回のワークショップで意見交換された内容をどのように設計に反映していくか、教職員ワークショップや教育委員会で協議を重ね整理した検討方針について説明しました。

- ・ はすの葉モールには門扉を設置するが、学校の敷地の中に交番は設置できない
- ・ 教室の広さについて現在 (7×9) より広い (8×9~10) スペースを確保している
- ・ 更衣室、相談室、クールダウンできる小部屋など、これまで頂いた意見を反映して各フロアにさまざまな機能をもった部屋を設置する
- ・ 体育館は1ヶ所の設置となるが、9学年が収容できる大きな体育館を設置する
- ・ 学校の運用、安全、管理などについても具体的に検討しながら、設計に反映していく

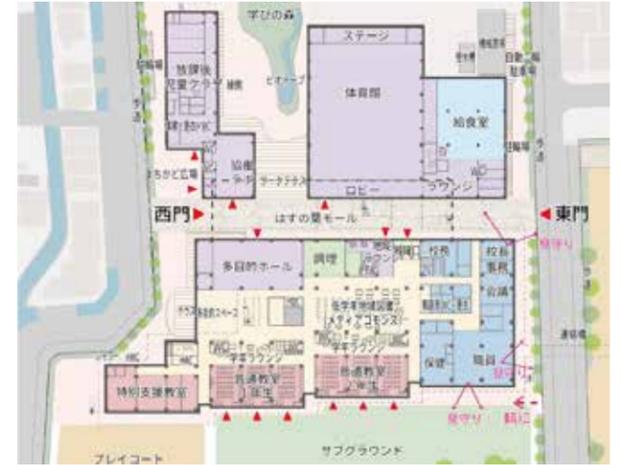


設計案の紹介

新しい学校を設計する石本建築事務所から、整備プラン案を説明しました。

平面配置プラン

脇田小学校の敷地に校舎と体育館、給食室、協働ラボ、放課後児童クラブを配置し、真ん中の空間にはすの葉モール、校舎の南側にプレイコートとサブグラウンドを計画。児童生徒は西門と東門から出入りします。第四中学校の敷地は主にグラウンド利用となります。はすの葉モールに面して、多目的ホール、調理室、地域ラウンジなど地域の人が利用できる施設を配置。校舎棟の青い部分は教職員コモンズと言われる管理ゾーンで、はすの葉モールや東側の道路などへの見守りの目が行き届きやすい場所に計画しています。



断面空間イメージ

左の図は、校舎全体の断面図を表しています。大階段が1階から4階までつながるような計画となっております。階段のまわりに普通教室と特別教室が並ぶような空間構成となっております。

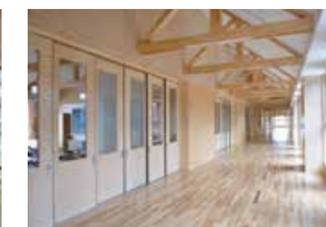
新しい学校の空間イメージの共有

新しい学校の空間イメージを共有するために、石本建築事務所から先進事例の紹介がありました。

吹き抜けの空間の手すりイメージ



教室の間仕切りイメージ



柵の高さや素材を工夫することで、圧迫感や閉塞感を緩和すると同時に強度をしっかりと確保できる。

教室の間仕切りを開閉することで、柔軟性に富んださまざまな使い方ができる。

地域利用可能施設の活用方法を考えよう！

前回のワークショップで話し合ったアイデアも踏まえ、地域と学校が連携していくための地域利用可能施設の活用方法を話し合っていました。以下の図面に、意見交換された地域と学校が連携していくためのアイデアの抜粋を示します。また、それらのアイデアを、誰が、どのような時期、時間帯に、どんなふう実践していくのか、また、登録制にするなど管理の方法などについても意見交換していききました。



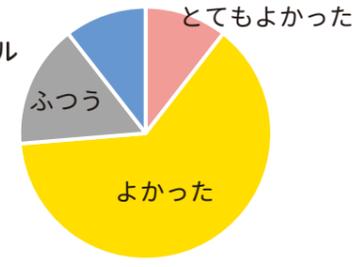
模型を展示しました！
作成した模型を展示しました。模型を確認することで立体的に空間を捉えることができ、平面図だけではイメージすることができない空間の雰囲気を理解することができます。

グループで話し合った内容を発表し、全体で共有しました。

- 1班**
 - 死角が多いのが気になる。校長室はガラス張りにして外の様子を見守れるようにできるといい
 - 教室は子どもたちが集中することを考えると、あまりオープンでない方がいい
 - 協働ラボは日頃から地域の人が活動していて、その様子が見えるようになるといい
 - 協働ラボで、就学前の子どもたちと上の学年の子どもたちとの交流ができるといい
 - 四中の植物を毎日管理しているおばあちゃんと子どもたちの交流から始められるといい
- 2班**
 - ハードだけでなく、ルールや規範で課題を解消していくことも大事
 - 協働ラボは、児童、生徒がいる時間も文化会館のような使い方ができるといい
 - クリスマスのイベントなど、いろんな取り組みができるといい
 - はすの葉モールを土日は開放できると、可能性が広がる
 - パン屋さんや地域の企業などがマルシェを開催するなどできるといい
- 3班**
 - 地域と学校が連携する取り組みを考えていかなければいけない
 - 施設として今の活動やアイデアを実現できる空間となっているかをしっかりチェックしていく必要がある
 - できあがった施設を活用するためのアイデアを考えていくことはできる
 - 地域のつながりづくりはこれからの課題
- 4班**
 - 調理室が1階にあるのは使いやすい
 - 協働ラボはたくさんの方に使っていただきたい。カードキーなどでの管理ができるといいのではないかな
 - 学校だけで管理するのは難しいので、行政の力も借りながら、みんなで管理方法を考えていきたい
 - 子どもたちに地域の活動をみてもらい、廊下ですれ違って顔を覚えてもらえるようになるといい
 - PTAの部屋は平日でも使えるようにしたい
 - 図書館は蔦屋書店のような使い方ができるといい
- 5班**
 - 空調や床材などの平面図で読み取れない部分、ゴミの回収などで出入りする業者の動線なども気になる
 - 1階の調理室は、子どもたちの朝ごはんや児童クラブのおやつをつくるなど、日常的に使えるといい
 - 協働ラボでは、まずはイベントのに使っていい
 - サブグラウンドで就学前の子どもたちが遊べるといい
 - コロナで止まってしまった地域の人たちの活動（絵本の読み聞かせや昔遊びなど）ができるといい

アンケート結果より やや悪かった

Q. 今日のスクールツクール
はいかがでしたか？



Q. 最も印象に残ったことは何ですか？
今まで先生方の意見をあまり聞けなかったが、今回聞くことができてよかった／図面が見られて良かった／学校が核となって地域と関わっていく考え方について深めることができた／前回の質問に対する答えがあったので納得できた